

暗闇から突然「管理者」の声！驚き怪我！

深夜の電留線で突然人の声！昇降台からあわや転落！

2017年10月5日深夜0時30分頃、Aさんは三島車両所の電留線で車両の入換作業中でした。そして担当電車に乗るため昇降台をちょうど登りきった時に、突然「ご苦様です！」の音が鳴り響いた！

真夜中に誰もいるはずのないところで、いきなり声が聞こえたAさんは、ビックリして昇降台の上から後ろへ倒れ、すんでのところの手摺にしがみつき、両足を踏ん張って転落せずに済みました。

暗闇の中でよく見ると、正面に構内操縦担当のM助役がいたのでした。M助役はなんと、笑いながら「手摺を握っていて良かったですね」と言ったのでした。人が転落しそうになったのに、なんと笑っていたのです。

Aさんはその後、右足に違和感を感じながらもとりあえず仕事を終え、勤務を終えて直ちに病院へ向かいました。その結果、「右下腿三頭筋挫傷、右手関節捻挫」という診断結果が出たのです。

真夜中に暗闇からいきなり声をかけ、怪我を追わせる＝労働災害を誘発するような労務管理を認めるわけにはいきません。

新幹線地本は直ちに幹鉄事に対して強く抗議し、謝罪と適切な対応を求めました。

会社・管理者は異常な労務管理はやめて謝罪しろ！